2020年度休眠預金等活用事業「困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成」
実行団体公募　採択事業

採択事業①

| | | |
|---|---|---|
| 事業名 | 貧困の子ども達が貧困の連鎖を断ち切り自立するための仕組みとふるさとづくり | |
| 団体名 | 特定非営利活動法人「わたしと僕の夢」 | |
| 所在地 | 福岡県久留米市 | |
| 代表者 | 佐藤 裕理子、小林 尚志 | |
| 事業の概要 | 貧困の子ども達の現実は、わたくしたちが考えているよりはるかに厳しい現実です。コロナ禍の中で益々その格差が拡がり、貧困の連鎖を止めることができないことが大きな社会問題となっています。貧困からくるこの子ども達の孤立や学力等の問題の解決のため、理想的な居場所や学習の仕組みを作り、長期的にサポートする場所を作ります。<br>進学や就職で巣立った子供（卒業生）達が、様々な問題や挫折に直面しても、安心して帰ってこれ、相談でき、再出発できる場所づくりを行います。そして、子ども達が自立し、地域に根付き、再チャレンジが可能となる拠点を維持発展していくために、持続的な運営資金調達の仕組みを確立していくことで、貧困の子ども達の連鎖を止める事業として確立します。 | |
| 事業期間 | 2021年 4月～ 2024年 3月 | |
| 助成額 | 助成金 | 17,395,300円 |
| | 評価関連経費 | 563,000円 |
| | 合計 | 17,958,300円 |
| 審査員講評 | 良かった点<br><br>・これまで培ってきた実績があり、計画の中から今後の事業の発展が期待できる。<br>・資金分配団体の事業の主旨にしっかりと合致する事業内容となっている。<br>・これまでの実績の中でしっかりとした産官学の連携を構築している。<br>・事業内容がメディア等で取り上げられやすく、広報戦略もしっかり行えると考えられる。<br>・ファンドレイジングの構想が現実的と考えられる。<br>・シングルマザーのコミュニティと連携して事業を進めるという新しいモデルにチャレンジしている点が良かった。<br>・施設の空き時間を活用したフリースクールの運営も計画の中にあり、現在行っている事業と掛け合わせをしようとしている点が良かった。<br><br>改善すべき点<br><br>・事業終了後の4年目以降の事業内容について不確定なところがある。<br>・団体の事業改善に焦点が当てられていて、一部の地域にのみ便益が集中し、公益性の点で気になるところがあった。<br>・計画の中にある本の出版については、資金の出所や具体的な内容、本の活用方法などを今後さらに検討する必要がある。<br>・団体や事業の持続可能性について検討する必要があると考える。 | |

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

採択事業②

| | | |
|---|---|---|
| 事業名 | 児童養護施設退所者ならびに生活困窮にある若者の自立支援の家づくり | |
| 団体名 | みんなの家みんか | |
| 所在地 | 福岡県朝倉市 | |
| 代表者 | 師岡　知弘 | |
| 事業の概要 | みんなの家みんかは、児童養護施設を退所し、準備不十分のまま社会に出ていかなくてはならない子どもたちの自立のために、無期限で生活環境と社会生活に必要なスキルを学ぶ環境を提供する。また、過疎化、高齢化が進む朝倉市高木地区の家を拠点とし、地域機能・産業維持が難しくなっている状況に対し、本事業の対象となる若者と一緒に取り組む機会を設けることで、地域に対する貢献事業を行う。 | |
| 事業期間 | 2021年　4月～　2024年　3月 | |
| 助成額 | 助成金 | 17,500,000円 |
| | 評価関連経費 | 800,000円 |
| | 合計 | 18,300,000円 |
| 審査員講評 | 良かった点<br>・計画書類の内容がしっかりと作られており、今回の公募の主旨に合致している。<br>・社会的養護の子ども若者が地域・社会で生活していくインフラや環境を作っていく基盤になると感じる。<br>・事業にかける強い想いが感じられた。<br>・養護施設退所後に居場所がなく、仕事も辞め苦しい生活をしている若者をたくさん見てきた経験から、心の支えとなる居場所「みんなの家みんか」があれば多くの若者が救われ、ここで暮らし働くことで、仕事をすることの喜びや社会人としての成長も期待できると考える。<br>・本事業において資金分配団体が設定した社会課題の解決に対する蓋然性が非常に高いと考える。<br>・過疎地域においてこのような事業実施者がいることは非常に大きな希望である。<br>・計画している事業は他にはない新しい内容である点が良く、事業規模にも見合った取り組みと考えられる。<br>・提案事業は資金分配団体のサポートがあれば新しいモデルケースになると考える。<br>改善すべき点<br>・面接時の説明において、事業代表者以外の事業実施者の姿が見えず、チームとして事業の運営ができるかが懸念される。<br>・人的な支援なども含めて資金分配団体がしっかりとサポートしていく必要がある。<br>・事業代表者の個人の想いのみでは対象者に寄り添った支援は難しく、必ずしも良い結果にはつながらないと考えられる。<br>・計画している事業に対する実績が不十分と考える。<br>・事業の対象者の目線で考えると児童養護施設退所後の子ども若者がみんなの家みんかを利用したいと思えるかは分からない点がある。また、交通インフラが整っておらず、立地上の問題も懸念される。<br>・まずは、対象者を体験的に受け入れていき、実績を積む必要がある。 | |

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。